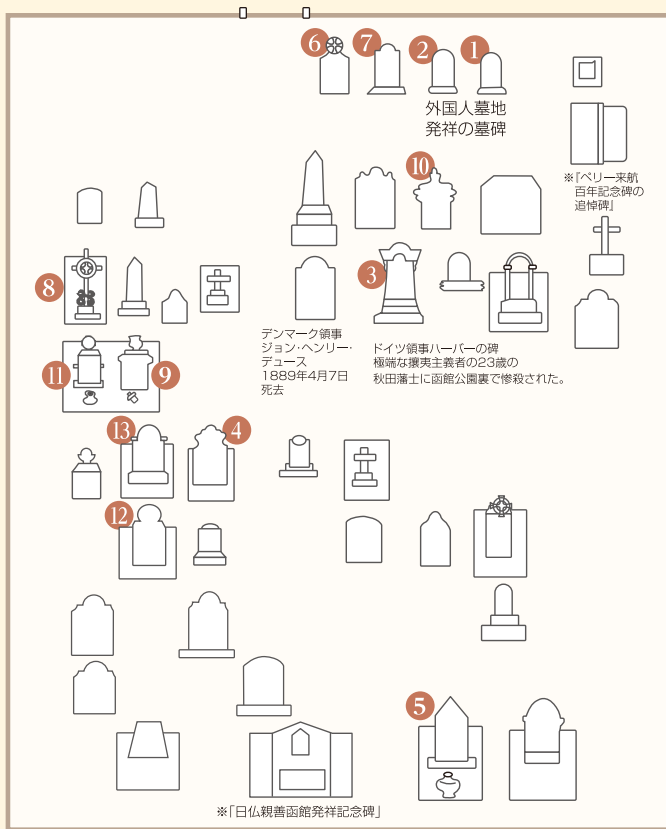




プロテスタント墓地に眠る人たち



安政元年（1854）4月に箱館に入港したアメリカの①②ペリー艦隊の2名の水兵の埋葬に始まる。名前などが確認される墓碑41の内17基がイギリス人とされる。最初に埋葬されたイギリス人は1855年（安政2）7月と8月に箱館で没した⑥軍艦ウインチェスター号の22歳の水兵2名で、1基の墓にジョンとデインの名が刻まれ「碑は乗組員によつて建つ」とある。次に安政6年（1859）初代イギリス領事ホジソンがオールコックと同道し箱館に来航時の⑦軍艦ハイフライヤー号の火夫ジェイムスの墓が建つ。明治15年（1882）に没した⑧聖公会監督アンドリュースの愛娘「バチュラー（アイヌ語の大家）夫人の妹の墓」もある。函館で生涯を終えたイギリス人は⑨ビウィック⑩ブラキストン・マー社のマー⑪トムソン⑫ウイールソン⑬ウイールほか寄港中埋葬の海軍将校・船長の墓碑も建ち、イギリス人以外の国籍は、ドイツ7名アメリカ5名イタリヤ、デンマーク、ポルトガル、ノルウェイ各1名である。（馬場脩）



⑤ フリー・メーソンの記章のある墓碑 ④
ジェイムス・スコットの墓碑
ブラキストンに機械技師として
招かれ、「山ババ」と呼ばれて
市民から慕われていた。

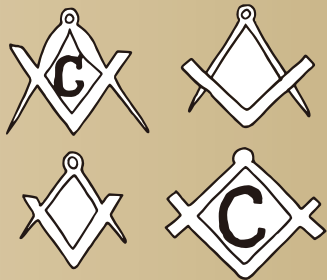
③
船長ジェイムス・エイ・キルゴア
1887年1月7日汽船尾張丸に
乗船函館近海航中死去

②
初代ドイツ領事
ルードウィッヒ・ハーバー眠る
1843年3月15日
シュレジア・プリーグに生まれる
1874年8月11日死去

①
ペリー艦隊バンダリア号
乗組水兵
ジョー・ダブリュウ・レミックを
記念して
1854年5月27日死去

本墓地の墓碑に残る フリー・メーソンの記章

本墓地41基の石碑の4基に、コンパスと定規を交差している奇妙な印があって、最近フリー・メーソン（秘密結社）の記章であることが判明して甚だ興味を呼んできた。墓碑はアマのものにあるもの、④の墓碑はジェームス・エイ・キルゴア船長のもの、ウイールソン・トツドのもの、⑤墓碑はジェイムス・スコット翁のものである。



⑤ この形の十字架は、「ロシアン・クロス」「八端十字架」と呼ばれます。八端十字架の下
の斜めの棒は、聖書に、
主ハリストスが十字架に掛けられた時、左右の十字架にそれぞれ盗賊が掛けられていたと、ハリストスの右側に掛けられた盗賊は人生の最後に悔い改め、その霊は天国に上げられました。左側に掛けられた盗賊は、最後まで悔い改めること無く、その霊は地獄に降されました。従って、十字架に掛かっているハリストスから見て右側が上になっており、左側が下がっています。正教会の祈祷文は、信者はこの十字架を見る度に、霊の救いのために悔い改めがいかに大切であるかを思い起こします。聖書においての「罪状書き」の札を表しています。

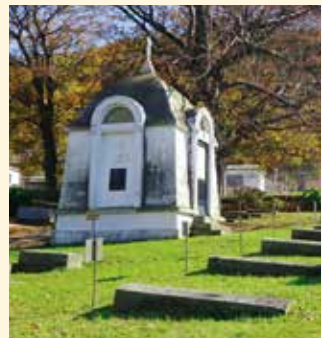
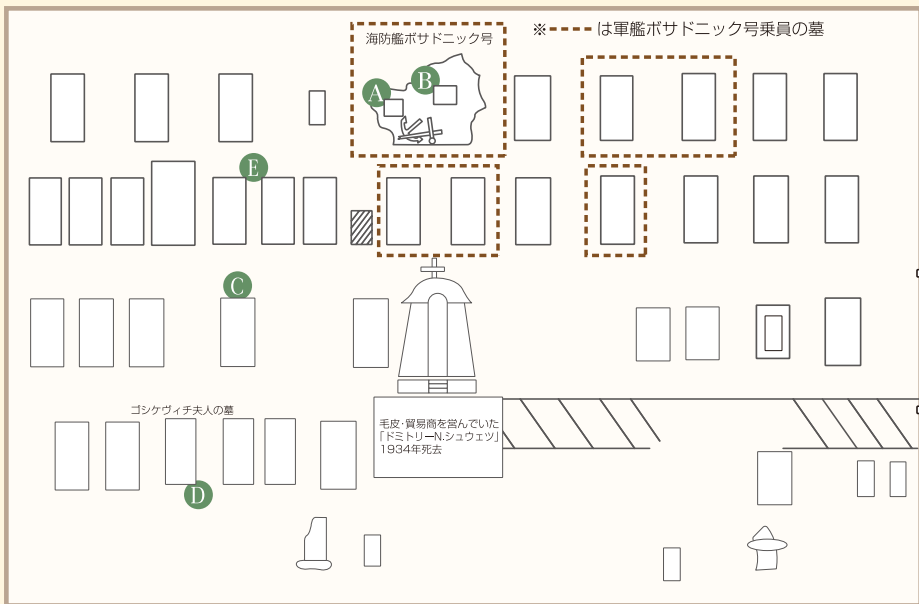
④
1858年来日した初代
ロシア領事婦人
エリザヴェータ・ステファノ
ヴナ・ゴシケヴィチ夫人
1864年9月5日死去

③
ロシア人墓地最古の墓
戦艦アスコリト号航海士
神の僕ゲオルギー・ボリスケ
ウィッチの遺体を葬る
1859年6月26日死去

②
ここに海防艦ボサドニク号
海軍少尉候補生
アンドレイ・ポポフの遺体を葬る
1862年3月18日死去

①
ここに海防艦ボサドニク号
水平ステパン・ゴリコフの
遺体を葬る
1862年3月18日溺死

④・⑤ 第4・5号合葬墓石
この巨大な自然石の左側には第4号墓碑を右側には第5号墓碑が彫りこまれているこれは函館で最大な墓石で、これは溺死の難にあった少尉候補生アンドレイ・ポポフの母がわざわざ函館迄やって来て、息子と同僚のために建てたものと言われている。



1859年の6月に死亡した軍艦アスコリド号の航海士の墓が最古。1859年から1863年の時期に埋葬者が集中しており、この中で最多は対馬を一時占拠した「ボサドニク号事件」として有名な軍艦ボサドニク号乗員の7名である。その後ロシア革命後に亡命してきた人等が埋葬され、現在判明している墓碑は50基弱。長年不明となっていた1864年に死亡した初代領事ゴシケヴィチ夫人の墓が見つかり、1993年に新たに墓碑が建立された。



ロシア人墓地に眠る人たち



中国人墓地に眠る人たち （中華山荘）



中国人墓地は明治9年（1876）に青森県に中国人の水死体が漂着したことを受けて、黄宗祐らが在函華僑が墓地貸与を願い出たことに始まる。開拓史は在函華僑の要望を受け、函館区台町153番地（現在の船見町23番地）の約183坪の貸し渡しを決定し、ここに中国人専用墓地である中華山荘が成立した。大正8年（1919）には中華山荘の大修理が行われ、同時に近隣の私有地を買収して敷地面積も合計約466坪に拡張され、敷地の周囲もそれまでの木柵からレンガ塀に変わりました。いくつかの墓石の横には「福德正神（土地神）」の石塔が建てられており、中国福建地方の習慣が函館にもたらされている。